

「女性の日」創設に関する意見・企画・提案について

平成22年2月19日付け、山市活B2501-22号(市長名)により、市広報1月15日号「市長から市民のみなさんへ」の記事に関し、市男女共同参画審議会委員に「女性の日」創設に関する意見を求めた

◆市男女共同参画審議会委員提出分意見等

【1】意見

- ・「女性の日」市民、家族みんなで女性に感謝する日。どこの市にもない、この特別な日ができることは、市民の誇りの日になる。特に、各分野において女性の占める割合、子育てチャレンジ支援、あらゆる暴力の根絶など、感謝と共に男女共同参画社会を目指す日であり、女性の働きやすい(特に子育て)当市にしていきたい。
- ・男女共同参画社会の意味を市民の皆さんに理解してもらうためにも、「女性の日」の設定をし、何らかのイベントをすると良いと考える。
- ・”男性と女性が共に認めあう”機会になる日として「女性の日」を創設されることには、賛成する。ただ、「女性の日」というと、一方の性だけを特別に取り上げて考えるという印象を持つ。広報の文面にあるように、各種意識調査でまだ男女差別が残っているということで、その意識改革を市全体で考えたいということで、このネーミングになってしまうのか。「女と男の一行詩」の募集と一体化したものととして「女性の日」の催しをしたらと想う。その場合、「女と男の日」として、女性、男性、互いのこれからについて考え、互いに感謝する、一方の性だけでないものを目指していけると感じる。
- ・「女性の日」は10月1日に限定しない方が良いと思う。たとえば10月1日から一週間(女性週間)とされてはどうか。一日に限定されるよりも、土・日も含めた一週間の方が職場においても家庭においてもそれぞれのスタイルで感謝を表現しやすいと思う。(職場では例えば家庭との両立をがんばっている女性に対して「ノー残業デー」にするとか、女性にいつもお茶を入れてもらっている所は男性が入れる日にするとか、各職場で考えることができる。日曜日が休日という人が多いので、10月1日が平日なら実現しにくい事でも、女性週間にすると実現できる。また、平日が休みの人などもおり、各個人が生活に合わせて実行しやすい。また、一週間にすることで、男女共同参画の意識がより高まり、市民の間でも定着していくと思う。

- ・男女共同参画社会を更に発展させる契機となる日を定めるといふ考えには大賛成である。男女がお互いを尊重し認め合うための機会を設け、改めて意識的にお互い素晴らしさを見つめなおすといふことは大変有意義な取り組みだと思ふ。最終的に、現実生活において男女が平等となることを目標としているわけなので、「女性の日」と、女性だけに焦点を当てたネーミングよりも良い呼称があるのではないかと考える。
- ・10月1日「女性の日」の設定すばらしい発想だと思ふ。
- ・「女性の日」は、女性の特性である木目細かに物事をこなし、家事、育児、介護を立派にやっている事への感謝と尊敬を表す日と位置づけることとする。
- ・「女性の日」創設には賛成である。「女性の日」って何だろう？と思ってもらえる人が一人でも増えて、少しでも関心を持ってもらえるきっかけをつくる大切な事だと思ふ。男性の考え方が変わることが大切ではないかとも思ふ。

【2】企画・提案

- ・広報にメッセージ記入欄をもうけて日頃の”感謝のことば”を募集し、(妻へ、母へ、祖母へ、姉へ、妹へなど女性へなら誰宛てでも)広報に載せたり(匿名でもよい)、市民館や図書館などに掲示してはどうか。
- ・10月1日から約一ヶ月間、中央図書館に、男女共同参画に関する図書の展示及び貸し出しのコーナーを設ける。(本は児童向けから大人まで、男女平等、DVに関するもの、父親の育児参加など)
- ・託児ルーム付きの講演会や音楽会、女性の一日子長体験など
- ・男性から女性への意見・女性から男性への意見をお互いに述べ合う企画などをつくってはどうか。(ここでいう「意見」とは、称賛すべきこと・改善すべきことの両方共を意味している)、ネガティブな面ばかりを批判し合うのではなく、お互いの良い面をたくさん指摘し合うことができれば、今後、より心穏やかに、思いやりを持って共に生活することが可能になるのではないか。
- ・10月1日に公共機関(文化会館・市民館・公民館等)を利用して、全市民参加を促すような行事を考案してはどうか。その付帯事項として
 - ① 各家庭において「真の男女平等」としての感謝の意を表す方策
 - ② 学校教育分野において事前に趣旨を充分認識させ、全校体制としての定着を図れば「女と男の一行詩」の認識の源となるのではないか。

③ 企業に対しての施策が重要になると思う。賛同されている6社に対し、状況を理解していただき、企業独自の発案を実施していただければ、10月1日すばらしい行事になると思う。※園児・児童・生徒の発表会、児童・生徒の「女と男の一行詩」表彰式、女性の体験発表会、劇化等

・女性の日イベント開催（この日の為に余り予算を使わないでほしい）

◎女性のみ割引のあるコンサート

◎記念講演

女性起業家 家事、育児、介護の体験談など

・日頃の雑事から開放されて、1日ゆっくりくつろぐ場にしたらと考える。またこの日を女性の為の学習(楽習)の日として、考えてみてはどうかと思う。

・「女性の日」創設に関して

① 10月1日を「女性の日」とすることへの市民の周知徹底

② 「女性の日」のぼり旗作成

③ シンボルマーク作成

④ スローガンという元気のることば作成

例 山陽小野田市元気な女性五(十)か条のようなもの

⑤ 「女性の日」設定イベントを行い、啓発していく(もちろん式典を行う)

①イベントでは、商工会と協働・・・市の活性化

「女性の日」感謝デーの特典を設けてもらう

例 飲食店、ケーキ屋等へ働きかけ

10/1「女性の日」～1週間(3日間)女性同伴なら10%～50%割引等

◎女性の大好きなフリーマーケットを同時開催

◎市内食べ歩きバスツアー(参加費あり(1,000円程度)市内の飲食店での食事、文化財と企業めぐりをする)

⑥ 女と男の一行詩鑑賞会を分散して行う

昨年の出席状況の反省より、多くの市民に参加を促すため

①校区公民館単位の分散型を提唱する。多くの一般の方々の協力と行政の力が費やされたすばらしい作品群 発表(表彰)と紙面による啓発のみではもったいない。ことばの中に込められている作者の思いをトークの中で引き出していくことで、より思いを強くしていくことができる。時間は要すると思うが「対話の日」のようにこつこつ一歩一歩からかなと思う。

◎公民館でなければ参加しやすい施設とキャッチコピーでお茶とお菓子でリラックスした雰囲気の中で